

富山県看護連盟 研修会報告	開催日	2019年12月14日(土)
	時間	9:30～12:00
	場所	看護研修センター 第一研修室

研修会名	富山県ポリナビ(若手会員研修会) テーマ「看護職として働き続けるために」	
内容	パネリスト	富山県看護連盟 青年部推進委員会 高田 裕揮 委員
		富山県看護連盟 青年部推進委員会 古金 祥子 委員
		自由民主党 富山市議会 厚生労働委員会委員長 高田 真里 先生
		岐阜県看護連盟 青年部委員会 相談役 伊佐治 哲也 先生
		自由民主党 富山県議会厚生環境部会委員 青年局長 平木 柳太郎 先生
コーディネーター	富山県看護連盟 青年部推進委員会	盛田 大樹 委員長

参加人数 159名

三谷会長挨拶 看護と法律・選挙制度や看護連盟と看護協会の関係について。

【研修会内容】
 <第一部 パネリスト発表 要約>
 高田委員 看護連盟活動に参加することで少しでも政治に関心を持ってもらいたい。また、活動を通して様々な人と触れ合い自分の生活を変えるきっかけにしたい。
 古金委員 自分を必要とする居場所があったから家庭と仕事を両立できた。これまで経験した多くの出来事の中で学ぶことが多くあった。これからも、心身共に健康で新しい経験を積んで自分を高めたい。
 高田真里先生 働きながら育児を経験したことで問題を感じることも多かった。富山の若い人が生き活きと働ける土壌を築くために市議になった。心も体も健康で働くことが出来るよう女性の環境・暮らしを考えて活動している。
 伊佐治哲也先生 専門看護師とキャリアアップの経緯、その後に活躍できる環境を作ることの大切さについて。
 平木柳太郎先生 固定観念を除き、脳が現状維持しようとする習性を理解して認知することで人は変わるチャンスを掴むことができる。思ったことはやってみる事が大切。



<第二部 パネルディスカッション>
 スマホからアンケートに回答し、結果を見ながらリアルタイムにディスカッションを行う。
 アンケート 「看護師になって良かったと感じるときは？」の質問に約70%が「ありがとうと言われた時」と回答し会場から「患者さんから感謝の言葉を貰い、仕事へのやりがいに繋がった」との発表があった。
 アンケート 「看護師として大切にしていることは？」では約50%が「思いやり」と回答した。一番低い回答は「ベッドサイドに行く時間を設ける」であった。会場から「なかなかベッドサイドへ行けない」との意見あり。忙しい職場環境の中での課題も見えた意見交換の場となった。
 アンケート 「働き続けるために必要な職場環境は？」に対して約80%が「人間関係」と回答した。
 盛田委員長 研修参加者の多数がアンケートに協力してくれたことに感謝する。政治の事だけではなく色々なチャンスをつかむためにも看護連盟のホームページを見てほしい。これからも働き続けるために看護でもワンチームを目指したい。



【まとめ】 今回の研修アンケートから、研修会前後の変化が「①あった②少しあった」が約80%であった。研修参加前には、仕事と子育ての両立がうまくいかず辞めたいと思っていた。現状を変えたいと思いながら行動に移せない自分がいた。など現状に悩んでいる参加者もいたが、パネリストの意見、ディスカッションを行う中で、「看護職として働き続けるために」参加者それぞれの立場で考える機会となった。記述意見では、何事にも積極的な意識を持つ。与えられたチャンスをしっかりと逃さずつかむ。目標を持ち色々なことに挑戦していきたい。現場で感じたことは小さなことでも声に出し、働きやすい職場に変えるように行動する。など肯定的な意見に変化している。参加者159名中、130余名の回答を得ることができ、活発な意見交換ができた。看護師として働き続けるためには何が大切かを自問自答し将来の自分の在り方を見つめ直す事が出来たと思う。